

---

## 不整脈にCa拮抗薬とATPをどう使うか—基礎と臨床—

Ca拮抗薬とATPは、それぞれVaughan Williams分類のIV群薬、分類外の抗不整脈薬であるが、必ずしも中心的な役割をになう抗不整脈薬とはいえない。また、近年進展著しいカテーテルアブレーション治療の普及とともに、抗不整脈薬としてのCa拮抗薬の重要性は低くなったようにも思われる。しかし、臨床の第一線においては、今なおCa拮抗薬やATPの静注は第一選択として頻用されており、心房細動に続発する電氣的リモデリングの防止や特発性心室頻拍およびelectrical stormに対しても、有効性が確認されている。

第26回日本心電学会学術集会では、Ca拮抗薬とATPの重要性を再認識し新たな臨床応用への展望を開くために、学術諮問委員会提言シンポジウム「不整脈にCa拮抗薬とATPをどう使うか—基礎と臨床—」を開催し、第一線で研究を展開されている方々にご講演を賜った。基礎的内容として、Ca拮抗薬・アデノシン・ATPの薬理作用、さらにはそのターゲット分子であるイオンチャネルやシグナル伝達の概説をお願いした。次に、Ca拮抗薬・ATPの臨床応用として、上室不整脈・心房細動・特発性単形性心室頻拍・先天性QT延長症候群のelectrical stormに着目して、その抗不整脈作用やリモデリング抑制効果などを解説していただいた。

本書は、そのシンポジウムで取り上げた内容を各講演者にわかりやすく執筆していただき、単行本化したもので、「循環器薬物治療実践シリーズ」としては9冊目となる。日常の不整脈治療における手引書、あるいは基礎研究のための参考書として役立てば幸甚である。

単行本として発行するにあたり、ご講演いただいた先生方にご協力を賜りましたことを、この場を借りて深謝する。

平成22年2月 日本心電学会学術諮問委員会

有田 眞

蒔田 直昌

小野 克重

平岡 昌和

---